

(様式 5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山南高等学校・教諭・山本 清則
- 2 研修期間 令和6年7月25日(木)～令和6年7月26日(金) 2日間
- 3 調査研究課題 総合的な探究の時間を通じた、学校と企業との連携の可能性について
- 4 研修機関等 富山経済同友会主催「教師と企業人との交流」
- 5 研修の概要

富山南高等学校では「総合的な探究の時間」に、「各界で活躍している諸先輩方から広い視野に立った生き方や考え方を学ぶ」「興味・関心や進路に応じたテーマについて問題点をあげ、論じる能力をつける」「テーマに沿った探究活動をグループとして成し遂げる能力を身につける」という取り組みを行っている。具体的には、諸先輩、企業人による講演や、企業訪問をし、企業人から課題を提示いただき、それに取り組むというものであった。他校との情報交換や企業目線で考えたときに、新たな発想を見出すことができればと考え、富山経済同友会主催「教師と企業人との交流」に参加した。

経済界で活躍している(株)MGG代表取締役社長 牧田さん、YKK(株)副社長・黒部事業所長 小林さんの講演を聞いた。やはり、他業種の話聞くだけでも視野が広がる。さらに、会社を導いてきた経験と物事に対する考え方は、これからの自分の人生に示唆を与えてくれる。また、(株)ユーグレナの代表取締役社長 出雲さんのアントレプレナーシップの秘訣である、諦めない熱い思いに触れ、生徒の可能性を信じ導くことが教員の使命であると分かり、将来起業する生徒の姿に思いを馳せることができた。企業人の講演を生徒に聞かせたいと感じ、「総合的な探究の時間」を含め、できるだけ多くの機会を設け、多くの考え方に会い学ばせるべきであると確信した。以前、富山経済同友会の会員に、富山南高等学校の卒業生が多いと聞いたことがあった。自分の先輩と言われれば、生徒も将来の自分の姿を重ねることができる。同窓会から紹介してもらえれば、よい講師が見つかるに違いない、と考えが広がった。

3回の講演毎にディスカッションが行われたが、それとは別に、テーマ「組織運営」について話し合うディスカッションが1回行われた。(株)フクール代表取締役社長 福崎さんと、日本海建興(株)取締役社長 山田さんと7人の教員でテーブルを囲み、学校や企業を経営・運営するために必要なことを話し合った。ここでも目からウロコ。狭い世界しか知らない自分を自覚する。管理職がころころと変わる富山県の学校の特異性を、企業人から指摘された。企業における、中期課題を8人で考えるのに「3年」かけたり、社長として後継者の育成に「10年」かけたり、という腰を据えた運営の実際を聞くことができた。さらに、教員から生徒への影響力の大きさへの期待を聞き、教員という仕事の責任を感じた。与えられたテーマであったが、「テーマについて問題点をあげ、論じる」機会と経験を得ることができた。「教師と企業人との交流」は、探究活動の教員版を体験していたと思える。そのグループ内にアドバイザーとして社長さん方が混ざっている。意見に対する広い知見と深い考えを踏まえた助言は、私たちを成長へと導いていたのだと感じる。

「教師と企業人との交流」の2日目は、「体験型アクティビティ研修」であった。課題解決型とはいえ、ひとつひとつの制約のかかった課題には、考えさせる「ひねり」と、終わった後の振り返りで見えてくる「学び」が用意されていた。多くの課題に「役割分担」が求められ、目隠し課題にはチームワークに不可欠な「信頼性」、発音禁止課題には「協調性」が求められた。私の中には、文系探究活動はフィールドワーク型探究、理系探究活動は教科実験型探究が定番という固定観念がある。

「体験型アクティビティ研修」を運用したフクール代表取締役 福崎さんは、富山経済同友会とは別の、企業人の集まりでアクティビティ研修などの研修会を企画運営しておられると聞いた。研修会といえば講演とディスカッション、というのは固定観念なのかもしれない。コミュニケーション能力を自覚させ、さらなる伸長に導く目的に対し、考えていなかった手法が存在した。これからの「総合的な探究の時間」の新たな方向性を考えるきっかけとなった。コアSSHのように、県内高校が集まって協働で探究する「コア総合的な探究の時間」ができないだろうか。少人数校の生徒も、たくさんの探究テーマから興味あるテーマを探究することができる。教員も集まれば、各教員の負担軽減にもなるのではないかと。すでに実施されているのではないかとと思うが、実施されていなければ、「富山型総合的な探究の時間」が生まれる可能性があると考えている。